

SEA TRIAL

COMFORT “4×4”

TARGA 32

まさに熟成されたモデル——フィンランドの「TARGA 32」は2011年6月に発表されたモデルで、

以来、マイナーチェンジと細かな仕様追加が行われてきた。

この「TARGA 32」がようやく日本初上陸を果たした。しかも今回はオーナーの好みを全開に施したフルカスタム仕様。

使い勝手とそのデザイン性の高さに魅了される。

400馬力スターンドライブを1基搭載、ハイパフォーマンスかつアグレッシブな走りは“海の4×4”と称される「TARGA (タルガ)」ならではの。

浦賀沖で、待望のシートライアルに挑んだ。

text: Atsushi Nomura photo: Makoto Yamada
special thanks: WINCKLER www.sports-w.com



アグレッシブな走行シーンを見せる「TARGA 32」。しかし操船中の船内は驚くほど静穏だった。衝撃も少なく、急旋回時のいやな横Gも低いため、同乗者にも安心。ダンパーの効いたドライバースーツはさらに快適だった。



熟成されたハルが生み出すスムーズな波捌きと、優れたパフォーマンス&シーワジネス 全開時もパイロットハウス内はいたって静穏な、“海の4×4”「TARGA」

三浦半島の先端、浦賀にあるシティマリーナ ヴェラシスのバースを離れ、デッドスローで沖合いへ向かう「TARGA 32」。コンディションは6m/s前後の風、多少のうねりも見える。パイロットハウスの右舷側に設けられたドライバースーツ、ふわりとした座り心地で、しっかりとダンパーが効いている。

スロットルを徐々に倒して加速。爆発的な加速感はないがスムーズでは

とんどハンパをせずにプレーニングへ入っていく。クルージングレンジの25ノットを超えるが、パイロットハウスの内部だとほとんどスピード感がない。さらに加速し、30ノットオーバー。やはりそれほど出ている感覚ではない。この日のトップスピードは32ノット。非常に軽快な走りを見せる。写真を見ればアグレッシブなシーンの連続。しかしパイロットハウスの中はいたって静





紺のアルカンターラを基調としたインテリアは、エクステリアのワークボート風なイメージにもマッチして非常に落ち着いた雰囲気。パイロットハウスの両舷にサイドドア、前部にドライバーズシートとパッセンジャーシート、中央にL字型ダイネットというレイアウト。



穏。なんとも不思議な感覚。引き波やうねりにフルスロットルで突っ込み、これは跳ねるか?と思うときでも、まったくそういった挙動がない。スムーズに波を捌き、少し当て舵をするだけで、ほぼフラットな水面を行くのと変わらない感覚で走れるのだ。“海の4x4”と称される「TARGA (タルガ)」の、まさに面目躍如の瞬間である。高速旋回やスラロームの際も、緩やかなヒールで上手く横Gを逃がすため、同乗していても怖さを感じない。さらにパイロットハウス全周の視界が良いので、アグレッシブなマニューバも安全に楽しめる。

*

今回紹介する「TARGA 32」は、数あるTARGAの中でも日本初上陸となるモデルだ。TARGAは北欧フィンランドで1976年に創業したBotnia Marin (ボートゥニアマリン)のボートブランド。北欧伝統のスタイルであるパイロットハウスにウォークアラウンドのデッキレイアウト、使い勝手の良い装備と品のある調度のインテリアなどが特徴のブランドである。トラディショナルな外観ながらフィンボート(フィンランド製ボート)の例に漏れず、ハイパフォーマンス。走行性能は“愉しい!”としか言いようのないモデルが多いのも特徴だ。「TARGA 32」自体は2011年6月にデビュー、2013年8月にオプションのComfort Fore Cabin仕様(CFC)が追加され、その後も細かなブラッシュアップが行われてきた。まさに熟成のモデルである。デビュー翌年の2012年1月には、ヨーロッパの著名なアワード「Motor Boat Of The Year 2012」も受賞している。

32フィートとは思えない広々としたフォアキャビンとアフトキャビン、さらには個室ヘッドを有している。今回の艇はCFC仕様ではないが、CFCの場合は、フォアキャビンのヘッドクリアランスが拡がる分、パウデッキ高が高くなる。パイロットハウスの両舷にサイドドアがあり、シングルハンドでの離



広さも十分なフォアキャビン。ダイネットの脇からステップを降りるとアフトキャビンへ続く。アフトキャビンはシングルベッドとダブルベッドにセパレートされており、ダイネットのソファも合わせれば実質4ステートルームが確保されている。



フライブリッジはパイロットの段差を使って上手く配置されている。フェンダー収納スペースが充実しているのも使い勝手が良い。アフトデッキ、フォアデッキとも、ソファとテーブルを配置できるため素敵なピクニックエリアとなる。アフトデッキにはシェードも取り付け可能だ。広々としたスイングプラットフォームで海水浴にもいい。



着岸も容易。また前傾したフロントウィンドウのため、陽射しが直接目線に入りにくく、さらにはスクリーンロールも設けられているため、ロアヘルムで操船する分にはサングラス要らずである。

パワートレインはスターンドライブ仕様のVOLVO PENTA D6-400 (400馬力) を1基搭載。バランスの良いアグレッシブな走りは、おそらくこのパワーチョイスの賜物だ。エンジンバリエーションを見ると最大でD6-400×2基までであるが、400馬力でもアンダーパワー感は無かったぐらいだから800馬力ではどんなことになってしまうか……。また2019年の夏からは、VOLVO PENTAのアクアマティックドライブがDPHからDPIに置き換わるため、ダイナミックポジションシステム(DPS)のチョイスも可能になるという。

今回の艇はオーナーの希望によって質実剛健なイメージのグレー基調のハルカラー。さらにデッキ面もグレーとブラック、各種レール類もブラック塗装を施すこだわり。インテリアは紺のアルカンターラを各所に用い、濃いめの色合いのウッドとのマッチングで非常に落ち着いた雰囲気醸し出している。こういったオーナーの希望に応じてさまざまなカスタマイズに細かく対応してくれるのも、TARGAの魅力である。

自分好みのレイアウトや仕様、インテリアのファブリックなど、まるでカスタム艇のように選べてしまうのも、熟成したモデルならではの利点である。走り、居住性、サイズ感、しっかりと自分のボート遊びのイメージができている人ならば、これほど楽しいボートはないであろう。P.B.



TARGA 32

全長 10.78 m
 全幅 3.37 m
 喫水 1.10 m
 重量 6.30 ton
 エンジン VOLVO PENTA D6-400
 最高出力 400 HP
 燃料タンク 800 L
 清水タンク 150 L
 問い合わせ先 ウィンクレル TEL: 045-681-0104
 www.sports-w.com



YouTube